

エリアウェーブ

掲載内容

- ・ 峡東教育事務所 副所長 中村 英彦
- ・ 峡東地域の教育活動/イベント等の紹介
- ・ 峡東教育事務所からのお知らせ

「移りゆくゆく言葉の中にあり 大切にしたい言葉の力」

山梨県教育委員会峡東教育事務所 副所長 中村 英彦

今年も暑く、長い夏が過ぎ、各地で紅葉の便りが聞かれる美しい季節を迎えています。温暖化の影響か、近年、短い秋となっている感がありますが、自然豊かで文化財等もたくさんある峡東地区では、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋と、様々なイベントが開催され、季候の良い秋を満喫している声が聞こえてきます。



中村 英彦 氏
総合教育センター、塩山南小学校を経て、令和3年度より峡東教育事務所に勤務。本年度は副所長を務める。趣味は車全般（大好きです）

学校でも、体育大会や音楽発表会、収穫祭等のイベントが開催され、充実した学びが展開されています。教育事務所では、ふれあい学校訪問や各校で開催される校内研究会に参加させていただくことが多くなる10月から11月は、5人の指導主事が繁忙な日々を送っています。学校訪問での授業の様子を見ると、子供たちが、自分のコンピュータやネットを使って、調べたり、まとめたり自由自在に学んでいる姿を多く見るようになってきました。まさに「デジタルネイティブ世代」（生まれたときから、あるいはものごころついたころから、デジタル技術やそれを活用したゲーム機、携帯電話、パソコン、インターネットを代表とする新たなメディア環境のなかで育ち、生活してきた人々）だなど感じさせられます。同時に、学び方の多様性、また、子供たちの充実した学びの可能性を感じています。

ところで、毎年実施される文化庁による「国語に関する世論調査」の2022年度調査結果概要が、9月29日に公表されました。言葉遣いに大きな影響を与えると思う情報媒体について、全体では「テレビ」88.5%がもっとも高く、「スマートフォン・携帯電話」69.2%、「新聞」36.2%が続いています。ところが、16歳から20代の若者世代では逆転し、「テレビ」は70%前後、「スマートフォン・携帯電話」では、90%前後となっていて、ネットからの影響が大きいことがわかります。男子バレーボールのワールドカップ予選で大活躍した高橋藍選手がインタビューで「ひき肉でーす!!」と絶叫して話題になっていましたが、これも、中学生 YouTuber「ちょんまげ小僧」の決め台詞とのことです。YouTube等SNSに多くの時間を使うデジタルネイティブ世代である子供たちにとって、ネットは、もっとも影響力のある生活の一部といっても過言ではないのかもしれませんが。

また、この調査では、新しい言葉、「引く」「推し」「盛る」「寒い」「詰んだ」の5つ言葉の使用についても調査されています。若者世代では、「盛る」（よく見せようとする）「推し」（気に入って応援している人や物）を使っている人の割合が多く、普段の会話でもよく聞きます。これらは、文字でのコミュニケーションが中心のSNSで、短い言い方で表すことの必要性から生まれた、いわゆる「若者言葉」として若者世代にとって大切な言葉だと思えます。

5月に、5類感染症に移行したとはいえ、コロナ禍でのコミュニケーション不足の影響は大きいと感じています。若者文化を受け入れつつも、子どもたちの心身の健康、成長を考えると、顔を合わせて言葉を交わすことの大切さをも改めて感じているところです。これからデジタルが空気のように感じられ「デジタルネイティブ」という言葉も「それってどういう意味?」と使われなくなっていく日も近いのかもしれませんが。そのような変化の激しい時代だからこそ、学校、また、地域社会での暖かみのある「言葉の力」が必要となるのではないのでしょうか。

5月に、5類感染症に移行したとはいえ、コロナ禍でのコミュニケーション不足の影響は大きいと感じています。若者文化を受け入れつつも、子どもたちの心身の健康、成長を考えると、顔を合わせて言葉を交わすことの大切さをも改めて感じているところです。これからデジタルが空気のように感じられ「デジタルネイティブ」という言葉も「それってどういう意味?」と使われなくなっていく日も近いのかもしれませんが。そのような変化の激しい時代だからこそ、学校、また、地域社会での暖かみのある「言葉の力」が必要となるのではないのでしょうか。



「ライブ感を楽しもう！」～講談ワークショップ～ 笛吹市立一宮南小学校



張扇を使いながら自己紹介

9月11日に一宮南小学校の5・6年生を対象に「講談ワークショップ」が行われました。今回は東京と大阪から3人の講師を迎え、まずは講談のしきたりや発声方法などを学びました。子どもたちは事前に手製の張扇（はりおうぎ）を準備するなどやる気満々。まずは全体での発声練習から始めます。ポイントは「声をまっすぐに、遠くへ飛ばすこと」です。最初は小さかった声も、次第に遠くに声が伝わるようになります。次は張扇のたたき方。単に強くたたく

だけでは、いい音は鳴りません。手首を柔らかくして、扇の平らなところを平らな面に打ちつける。最も大事なものは「いい音が鳴るよう、心を込めて集中すること」です。その後は「水戸黄門」「満願かなうのもあとひとり（弁慶と義経）」「三方原の合戦（信玄と家康）」の3グループに分かれて、講談の練習を行いました。代表者は9月15日（金）に多くの聴衆を前にプロと同じ舞台上で講談を行い、好評を博しました。



「三方原の合戦」



「満願かなうのもあとひとり」

「薬物乱用防止教室」～依存の原因を考える～ 山梨市立笛川中学校



薬物による脳への影響を学ぶ

9月22日に笛川中学校の2年生を対象に「薬物乱用防止教室」が行われました。県精神保健福祉センターの雨宮さんを講師に迎え、依存症や薬物関連の問題について学びました。特定の物質や行為にのめり込んでしまい、健康や社会生活に支障が出たとしてもやめられない状態が「依存症」です。最近は薬物だけでなくネットゲームへの依存が国内外で社会問題化しており、早めに正しい知識を学ぶ必要性が求められています。薬物乱用とは「覚醒剤などの禁止されている薬物やシンナーなどの化学物質を不正な目的や方法で使用する」「医薬品を本来の治療目的からはずれた用法や用量で使用する」ですが、乱用する根底には「社会的な孤立」があるそうです。雨宮さんが生徒に語った『困ったときには身近な大人を頼ってください』という言葉の持つ意味をあらためて考える時間となりました。



感謝の言葉と今後の行動について述べる

地域の「日本遺産」について学ぶ ～点在する遺産を「面」として活用する～

甲州市立祝小学校・甲州市教育委員会生涯学習課



楯無鎧の正式名称を答えました！

9月14日に祝小学校の5年生を対象に「日本遺産の話」が行われました。甲州市教育委員会の高野さんを講師に迎え、日本遺産の制度・文化財の種類・地域の文化遺産等について学びました。日本遺産（Japan Heritage）は地域の歴史的な魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として文化庁が認定するものです。（甲州市関連は「葡萄畑が織りなす風景」「星降る中部高地の縄文世界」「日本ワイン140年史」など。詳細は文化庁HPを参照）普段当たり前目にしている風景も、歴史を含むストーリーを考慮すると視点も変わってきます。何気ない日常に目を向けることで、地域の財産と言える存在に気づくことができた有意義な時間となりました。



重要なことは即 ICT 端末にメモします



白黒写真をカラーに変換する

「フルオーケストラ」の響きを感じる ～オリジナルアレンジの校歌～

笛吹市立御坂西小学校・御坂東小学校



金管楽器の説明も面白おかしく



オーケストラの伴奏で校歌を歌う

9月12日に御坂西小学校体育館において、学校巡回講演事業「音楽の全てを体感！共感！大作戦！」が行われました。今回は御坂西小・御坂東小合同で実施しました。普段はなかなか見ることのないオーケストラに児童は興味津々です。「ピアノとフォルテのソナタ(ガブリエル)」から始まった東京佼成ウィンドオーケストラ45名による演奏は圧巻そのものです。共演コーナーではブラバンで定番の「テキーラ」が演奏され、会場全体が手拍子とかけ声につつまれノリノリの状態です。また、アンコールではサプライズとして御坂東小と御坂西小の校歌が演奏されました。曲名を告げられずに演奏が始まり、しばらくして「あ、これ校歌だ！」と気づいたときの児童の驚きと喜び。フルオーケストラによる演奏をバックに校歌を歌うことができた経験は、子どもたちの心に「音楽の素晴らしさ」として残るはずです。(なお、音源CDが各校に寄贈されました)



声を合わせ「テキーラ！」の大合唱

「防災デイキャンプ」～まず知って体験することから始めよう～

甲州市アドベンチャークラブ・甲州市生涯学習課



地震発生のメカニズムについて学びます

9月16日(土)、甲州市アドベンチャークラブは小学生低学年を対象に「防災デイキャンプ」を開催しました。いつ起こるかわからない災害発生時のため体験的に学習することで、防災に対する知識を深めます。今回は備えることの大切さと防災に対する意識を深めるため、山梨県防



噴射時間は約15秒。思っているより短い

災安全センターで施設見学・起震車での地震体験・煙体験・消火体験などを行いました。起震車での揺れは想像以上であり、震度6では何もできません。煙体験では狭い空間で煙が充満すると50センチ前も全く見えなくなる恐怖も体感しました。『天災は忘れた頃にやってくる』は科学者で随筆家の寺田寅彦氏による言葉ですが、あらためて平時にじっくりと緊急時への対策を考えておく必要性を感じた時間となりました。



今日の学びをみんなに伝えます



地域情報紙エリアウェブを通じて「他校種の情報を知ることができる」「連携のきっかけになる」とのお声を寄せていただいております。特別なイベントである必要はありませんので、お気軽に情報をお寄せください。(記事として紹介させていただきます。現在関係各所約300カ所に配布しています)

☎0553-20-2731 (担当・直通)

「ふるさとの自然にふれる」～乙女高原自然散策～ 山梨市立笛川小学校



はじめの会で目的について確認する

9月5日に笛川小学校の5年生20名を対象に「乙女高原自然散策」が行われました。自然観察を通じて、自然の大切さを学ぶと同時に地域への理解を深めることが目的です。8月の事前学習ではガイドを務めてくださる乙女高原ファンクラブの植原彰さんが来校し、乙女高原の現在の様子、草原保全の要となる草刈りの意義や歴史、乙女高原のキーストーン種である



いかにして高原が維持されてきたのか

マルハナバチの説明などを行いました。観察当日は事前学習の甲斐もあって、児童は非常に意欲的でした。多くの植物やマルハナバチを見つけては、ガイドの方に積極的に質問をしていました。『想像以上に虫や花がたくさんあって驚きました。感動したことは、虫や花が楽しそうに生きていることです。きっとファンクラブの方たちが管理してくれているからだと思いました。』という児童の感想から分かるように、短い時間でしたが多くのことを学ぶことができた一日となりました。



スライドとは違う本物の美しさ

「地元の食について学ぶ」～なぜ山梨のブドウはおいしい?～



ビタミンCが多い果物は酸っぱい?○か×か?

山梨市立後屋敷小学校・JA フルーツ山梨

10月11日に後屋敷小学校の5年生を対象に、「JA フルーツ山梨食育講座」が行われました。講師の加藤恵美子さんは山梨初の野菜ソムリエで、最高峰となるシニア野菜ソムリエの資格も有しています。現在はフルーツコンサルタントとして、県産フルーツの魅力を発信する中で、県産フルーツの消費拡大への取り組みも行っています。今回の講座は「山梨のブドウの特徴・毎日果物を食べる必要性・ブドウ(栄養など)について」の3部構成。山梨のブドウがおいしい理由には「①盆地特有の地形(傾斜地)②盆地特有の気候(寒暖差・四季がは

っきりしている)③水が美味しい④日照時間が日本一」が組み合わされていることがあり、まさに「自然の恵み」と言えます。ちなみにビタミンC・ミネラルの必要量をとるためには、一日あたり200gの果物を摂取することが目安であり、みかんでは2個分です。(ブドウではどの位の量になるのか?ぜひ調べてみてください)ビタミンCは水に溶けやすく熱に弱いので、果物からの摂取は非常に効率的だそうです。シャインマスカットと甲斐路の食べ比べでは「両方おいしい!」という児童が大半でした。最後にシャインマスカットがプレゼントされ、児童たちの喜びも最高潮となりました。



なんとシャインマスカットのお土産付き

「あきらめなければ夢はかなう」～金メダリストが来校～ 甲州市立井尻小学校



まずはやりたいことを見つける。そこから始まる

10月10日、井尻小学校の5・6年生を対象にスポーツ庁事業の一環となる特別授業が行われました。講師は2012年ロンドンオリンピックのレスリング48kg級金メダリストである小原日登美さんが務めました。



真剣にやるからこそ楽しめる

小原さんは世界選手権で8回優勝しながらも、怪我や所属

する階級の関係で長い間オリンピックに出場することができませんでした。一時レスリングから離れることもありましたが、オリンピック出場への夢は持ち続けました。そして2012年に念願のオリンピック出場を果たし、見事金メダルを手にすることができました。『やりたいことを見つけ、目標を立て、夢に向かって進み続けてほしい』という小原さんのメッセージは、無限の可能性を持つ児童の心にきっと届いたはずです。後半はレスリングのトレーニングを取り入れた運動やゲームをみんなで体験しました。世界を舞台に努力を続けたアスリートの言葉に直接触れることで、夢を持って行動することの大切さを再認識できた有意義な時間となりました。



みんな小原さんの人柄に魅了されました

「出前講座・放射線の基礎知識」～科学の一端を学ぶ～

甲州市立勝沼中学校



基礎知識を基本から丁寧に伝えます

10月13日に勝沼中学校において、出前講座「放射線の基礎知識」が行われました。信州大学基盤研究支援センターから廣田昌大さんを講師に迎え、講座と実習を行いました。前半の講座では「原子の構造」から始まり、電磁波・放射性同位元素・原子力発電・処理水等について学びました。後半は「霧箱による放射線の観察」と「はかるくんによる放射線の測定」の実習を行いました。自然科学とは再現性のある観測や実験に基づき自然界のルールを知る学問です。自然界の物体を「どのようにすれば、その運動を変えられるか」といったことを予測するのも自然科学です。科学を学ぶためには単に理論を覚えるだけでなく、実習等を通して



霧箱の実験。熱心に観察します



大学の先生の講義はなかなか難しい

体感することも重要。なかなか難しい内容でしたが、生徒たちは理解しようと頑張っていました。



放射線の通ったあとは飛行機雲のよう

「いきいき地域の消防・防災について」～普段の準備が大切です～山梨市立岩手小学校



実際に消防車に乗る経験は貴重です。

10月19日に岩手小学校の3年生を対象に「いきいき消防団」の授業が行われました。山梨市消防団岩手分団から分団長・副分団長が訪れ、消防団の活動等について説明を行いました。まずは車庫に格納されている消防車が登場し説明を受けます。実際に乗車してみると消防車は限られたスペースに必要な機材が満載で、まるでおもちゃ箱のようです。児童は「これは何に使うの?」と質問を投げかけます。



消火栓近くのホース格納庫には何があるの?



放水作業を体験。強い水圧を感じます

続いて放水作業を体験します。普段はしまっている消火栓の蓋を開けると、児童は中がどうなっているのか興味津々。そしてホースをつなげて放水作業開始。強い水圧に負けないように、しっかりと握ります。最後に分団長から「普段の地道な準備・訓練が大切」であることが

伝えられ、あらためて日常の過ごし方の大切さを考える機会となりました。

「ふるさと山梨郷土学習コンクール」～峡東地域から入賞者多数～ 山梨県教育委員会

- ◇ 「優秀賞・優良賞」(峡東地域内)のみを掲載します。
- ◇ 詳細は県HP「第16回ふるさと山梨郷土学習コンクール」をご覧ください。

小学校

ふるさと山梨優秀賞(教育長賞)	玉宮小	安部	翔太さん
ふるさと山梨優良賞(推進委員長賞)	加納岩小	三澤	穰さん
ふるさと山梨優良賞(推進委員長賞)	菱山小	内田	瑛梧さん・増田 継乃さん
ふるさと山梨優良賞(推進委員長賞)	八幡小	高梨	詩楠さん



中学校

ふるさと山梨優秀賞(教育長賞)	山梨北中	岡村	隼さん
ふるさと山梨優良賞(推進委員長賞)	松里中	手塚	悠智さん
ふるさと山梨優良賞(推進委員長賞)	塩山中	山田	正憲さん
ふるさと山梨優良賞(推進委員長賞)	塩山北中	廣瀬	はづきさん



峡東地域 中学校新人体育大会 団体の部(優勝校)

種目(団体の部)	東山梨地区	笛吹地区
野球	山梨北・山梨南	石和
サッカー	山梨北・笛川	一宮
バスケットボール(男)	塩山・塩山北	春日居
バスケットボール(女)	山梨南	一宮
バレーボール(男)	山梨南	石和
バレーボール(女)	山梨北	浅川
ソフトテニス(男)	松里	浅川
ソフトテニス(女)	山梨南	浅川
卓球(男)	山梨南	春日居
卓球(女)	山梨南	春日居
剣道(男)	勝沼	一宮
剣道(女)	塩山	春日居
ハンドボール(男)	塩山	—
ハンドボール(女)	塩山	—
ソフトボール	塩山	—
柔道(男)	—	浅川
柔道(女)	—	石和
弓道(男)	—	石和
弓道(女)	—	石和



いよいよ1・2年生が部活動の中心になりました。一日一日の積み重ねが大切です!

